

2004年1月16日

株式会社 富士経済  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
2-5 F・Kビル  
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
広報部 03-5614-1078

## エンブラ市場調査を実施

- 用途拡大が期待されるエンブラ市場の動向と応用製品の使用実態を調査 -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は、「海外重合拠点の新設」が活発化しているエンジニアリングプラスチック業界の動向を調査した。報告書「2004年 エンブラ市場の展望とグローバル戦略」では、ワールドワイドという観点から各種エンブラ市場の動向を詳細にまとめた。

### エンブラ市場の現状

日本国内の素材メーカーは、自動車、電気・電子、家電、産業機器といったエンドユーザーが海外に生産シフトをするのに合わせて、年々現地供給体制を強化している。

エンブラメーカー各社は事業の拡大を図る為に日本及びアジア市場を軸に生産・販売の両面においてグローバル展開を加速している。特に成長性の高い中国・アジア市場では日米欧亜のエンブラメーカー間の競争が激化している。

エンブラ樹脂は、汎用エンブラ、スーパーエンブラともに樹脂特有の耐熱性や耐薬品性など、機能性に見合った用途で採用が進んでおり、一部を除いて今後も市場拡大が見込まれる。

地域別では日米欧の市場規模が大きいものの、ユーザーによるアジアへの生産がシフトしている事から、エンブラの需要地域もさらにアジアへシフトする傾向が強まっている。特に中国は、日米欧のみならず台湾や東南アジアからの生産シフトも加わり、汎用エンブラ主体に世界の中で最も需要が伸長している。さらに中国へ成形加工に関する技術移転が進む事で、将来はスーパーエンブラの需要も本格化すると予想される。

一方、用途分野別ではエレクトロニクス分野はIT不況による影響を受け、2001年はエンブラ需要も低迷したが、2002年以降は回復し、現在デジタル家電を中心とした需要は好調に推移している。

自動車分野においても年々軽量化、リサイクル、低コスト化を背景にして、欧米を中心に金属代替が進行しており、エンブラ化が進んでいる。

エンブラ樹脂メーカーは、これらユーザー企業のグローバル展開に伴い、海外への事業展開を強化しており、今ワールドワイド市場における「現地生産対応」と「コスト競争」がますます活発化すると予想される。

### エンブラ樹脂の需要推移(ワールドワイド数量ベース)

汎用エンブラ	2003年見込み	552万4,000トン
	2006年予測	637万4,000トン
スーパーエンブラ	2003年見込み	29万3,000トン
	2006年予測	36万5,000トン

調査対象品目25品目における2003年エンブラのワールドワイド市場規模見込みは、数量ベースで581万7,000トンと推定される。

### 汎用エンブラ2003年市場規模(金額)

エンブラ樹脂別に、現状の金額ベースの市場規模と今後の成長動向を見ると汎用エンブラはスーパーエンブラよりも金額ベースの市場規模が大きい。高機能をもつスーパーエンブラは、汎用エンブラと比較すると単価ベースでは高価格であるが採用用途が限定されており、市場金額規模はフッ素樹脂などを除けば何れも1,000億円を下回っている。

しかし、2008年伸長率で見ると、汎用エンブラが概ね130%前後であるのに対し、スーパーエンブラの中にはポリアミドPA9T(PA9T)、シンジオタクチックポリスチレン(SPS)、ポリベンズイミダゾール(PBI)、熱可塑性ポリイミド(TPI)、液晶ポリマー(LCP)など、今後目覚ましい伸び率を期待される樹脂が多く見られる。

汎用エンブラではポリカーボネート(PC)が金額規模6,290億円と最大であり、なおかつ伸長率も

高く、今後の有望な市場である。PCに次いで有望なのはポリアミド6（PA6）とPA66であり、ともに金額規模4,000億円程度と類似した傾向を示している。その他のポリブチレンテレフタレート（PBT）やポリアセタール（POM）などは、ほぼ110%～130%程度の伸長率と見込まれている。スーパーエンブラの中では、フッ素樹脂が金額ベースで2,670億円と唯一1,000億円以上の市場規模となっておりこれにポリアミド11,12（PA11,12）が846億円と続いている。両方とも高価格で、120%程度の伸長率である点では共通している。スーパーエンブラの中で、今後の伸長率が極めて高いと予想される樹脂は、ポリアミド9T（PA9T）、SPS、PBI、TPI、LCPなどである。特にPA9Tは自動車向けで2005年以降需要が急激に拡大する可能性がある。どの樹脂も新規用途開拓を行っている最中であり、いまだ市場金額規模が低い。今後生産規模の拡大に伴い、金属代替を目的としたコストと性能のバランスにより、どの程度新規用途展開を加速してゆけるかが重要な点になっていくものと考えられる。

#### 規模も大きく今後とも成長市場

ポリカーボネート（PC）2003年市場規模見込み 6,290億円

ポリアミド6（PA6）2003年市場規模見込み 4,100億円

ポリアミド66（PA66）2003年市場規模見込み 4,020億円

PCは、2002年、2003年とIT関連の需要回復やDVDなどのディスク需要が増え、自動車向けでも需要は少しずつ増え2003年は206.4万トンの需要となった。2004年以降は、日本、アメリカ、ヨーロッパでは年2%～3%の需要増加が見込まれるが、日本を除くアジアでは年10%以上の需要増加が見込まれ、ワールドワイド全体では6%程度で需要が増加すると見込まれる。

#### 今後有望市場

ポリブチレンテレフタレート（PBT）2003年市場規模見込み 2,500億円

自動車向け需要の拡大、電気電子分野向け需要の回復、PBTの低価格化によって増加が見込まれる。中国におけるPBT生産の拡大により、この2～3年でアジアでは大きな動きとなると予測される。

その他には、

ポリアセタール（POM）2003年市場規模見込み 2,210億円

変性ポリフェニレンエーテル（m-PPE）2003年市場規模見込み 1,200億円

GF強化ポリエチレンテレフタレート（GF-PET）2003年市場規模 480億円などがあげられる。

#### スーパーエンブラ（100億円以上）

##### 高成長で今後の期待市場

液晶ポリマー（LCP）2003年市場規模見込み 238億円

ポリアミド（PA6T）2003年市場規模見込み 199億円

ポリエーテルエーテルケトン（PEEK）2003年市場規模見込み 194億円

LCPはSMT対応向けの需要が多く、主に携帯電話やノートパソコンといったIT関連機器の市場動向に左右される傾向にある。2004年以降も中国を主体としたアジア市場を牽引して、当該市場は年率10%以上と市場規模は拡大傾向で推移すると予想される。

#### 世界主要4地域別汎用エンブラ/スーパーエンブラ需要構成（2003年数量ベース）

##### エンブラ25品目全体 2003年見込み

アメリカ 174万2,628トン（対前年伸び率予測3.0%）

欧州 164万6,853トン（対前年伸び率予測2.8%）

日本 75万9,640トン（対前年伸び率予測3.1%）

日本を除くアジア 155万4,276トン（対前年伸び率予測10.9%）

##### 汎用エンブラ8品目全体

アメリカ 164万1,900トン（対前年伸び率予測2.9%）

欧州 156万9,300トン（対前年伸び率予測2.7%）

日本 69万8,500トン（対前年伸び率予測2.7%）

日本を除くアジア 150万400トン（対前年伸び率予測10.7%）

##### スーパーエンブラ17品目全体

アメリカ 10万728トン（対前年伸び率予測4.1%）

欧州 7万7,535トン(対前年伸び率予測4.6%)  
日本 6万1,140トン(対前年伸び率予測7.8%)  
日本を除くアジア 5万3,876トン(対前年伸び率予測15.7%)

エンブラ全体の世界主要4地域別需要は、アメリカと欧州で需要が高く、市場規模も拮抗している。しかし、日本を除くアジアも汎用エンブラを中心に欧米市場に迫る勢いで需要が伸長しており、将来アジア市場は欧米市場を上回り世界トップのエンブラ需要地域になると予想される。

スーパーエンブラも欧米市場の需要が高いものの、日本やアジアはエレクトロニクス産業が盛んであることから、汎用エンブラほどウエイトに開きはない。

スーパーエンブラも日本を含めたアジアでの成長性が高く、今後は生産拠点及び技術移転にともない欧米との需要量の差は徐々に縮まると予想される。

**調査方法** (株)富士経済専門調査員によるヒアリング対象40社

**調査期間** 2003年10月~12月

**調査のポイント**

汎用、スーパーエンブラにおけるタイプ別マーケット推移の実態と今後の見通し  
ワールドワイド地域別、用途分野別に見られる需要の実態と今後の見通し  
新規用途への展開と可能性、競合状況及び技術的な課題・問題点  
参入メーカーの近年の動向及び海外進出状況

資料タイトル : 「2004年 エンブラ市場の展望とグローバル戦略」

体 裁 : A4判 272頁

価 格 : 100,000円 (105,000円税込み)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 ケミカルグループ

TEL:03-3664-5821 (代) FAX:03-3661-9514

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165

e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>